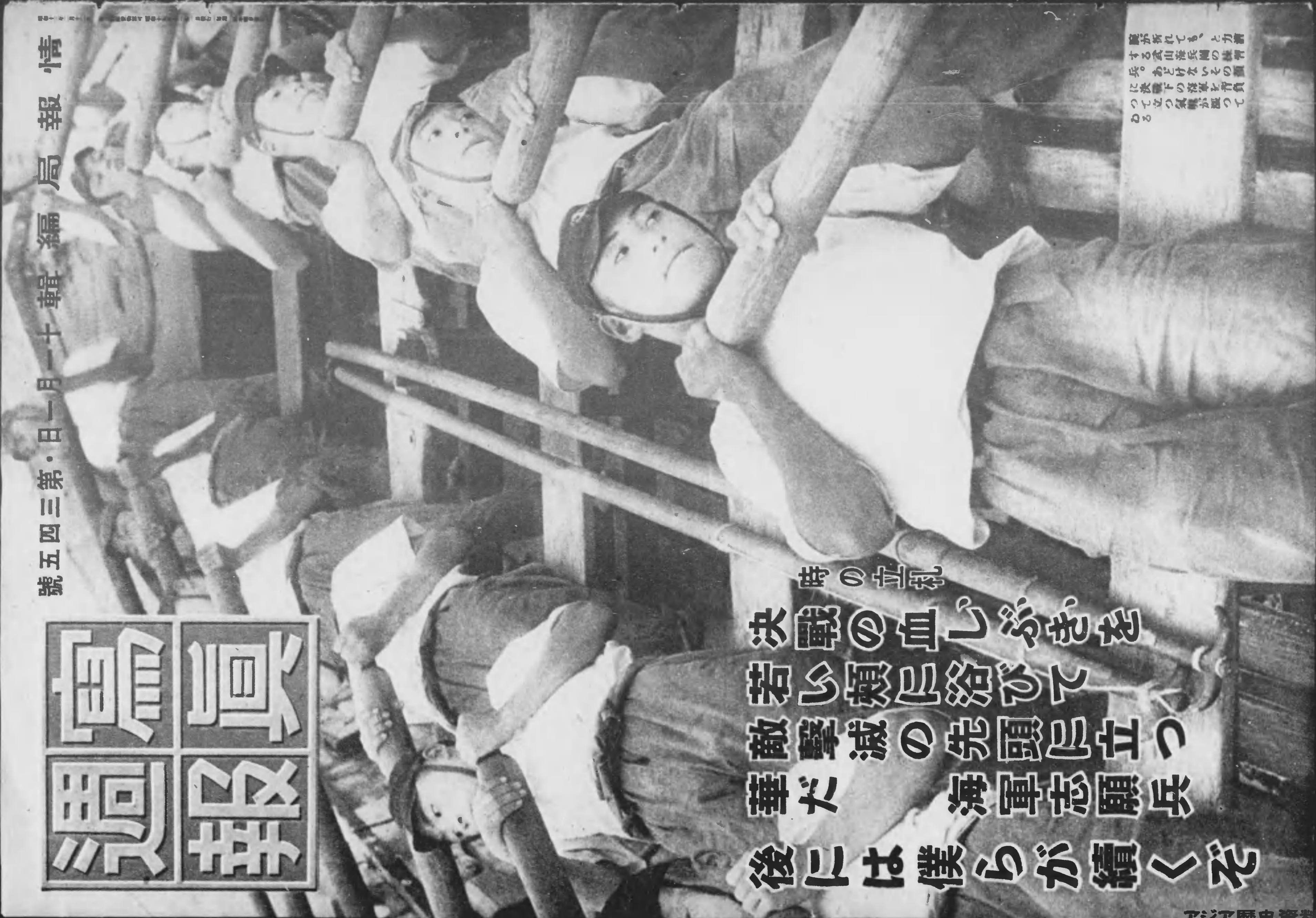


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號五四三第・日一月一十輯編局報情

週報寫眞



腹が折れても、と力清
する武山海兵團の練習
兵。あどけないその顔
に決戦下の海軍と背負
つて立つ気概が透つて
ゐる

時の立札
決戦の血しづきを
若し頬に浴びて
敵撃滅の先頭に立つ
華だ 海軍志願兵
後には僕らが續くぞ



高橋英武を撃つには 手は遅い

重轟撃隊は轟で叩き、出陣準備中
て飛行機一杯に羽撃く海軍航空隊員
撮影 鈴木清次郎



一値が「今にみる」と唇を噛みながら、その時を待つてゐた太平洋決戦の火蓋は遂に切つて落された。思へば長い歴史の日だつた。ガダルカナルの轉進以來、二年餘、太平洋の戦勢は我に利あらず、アッツ、マキン、クラヴ、サイパン、アニヤン、大宮と、われは幾度か似かひの涙を呑み、天を仰いで哭いた。重苦しい日々であつた。前線將兵は目に餘る敵の蹂躙に地固太を踏みながら機動の運搬を敷き、戦後の生産陣また自ら造り出す新設備の出動が威力を發揮する日の到らないの焦燥を感じてゐた。今に見ろ、そして今その決戦の時を来たしたのである。

幸先よくも勇闘の一戦、臺灣沖航空戦では敵機動部隊を潰走せしめ、轟撃沈敵五十数隻といふ素晴らしい戦果を収めた。ハワイ真珠網を深く大戦果であり、戦史に例をみない輝かしいものであつた。

「やつたぞ、やつたぞ」相次ぐ大戦果の發表に、われは正に戦友相擁して泣くのが氣持であつた。胸がすいた。涙を下げたといつただけではいひ足りない。あの發表以來、街ゆく人々の顔にも、工場で旋盤と取組む人々の顔にも、また野良に立つ人々の顔にもいひ知れぬ感激と明るさが感じられるやうになつた。殊にわが陸軍の聲援が激減せしめた敵の機動部隊は、マニラ以來、恨み重なる敵の太平洋最精銳である第五十八機動部隊である。太平洋の防波堤となつて全員戦死された英雄、雄魂に、いさゝかでも聞いて得たとするわれの感慨は筆舌に盡し得ない。

だが、この大戦果は何によつて来たのであらうか。もとより御機成の下、軍兵よく業を破る日本兵法の妙義が戦機に投じ、前線將兵の生死を超越した機成り攻撃によつて遺憾なく發揮されたものであることはいふまでもない。しかもなほ、いひ加へ得るならば、この目を期し故々我々、骨身を削つて戦後生産に

凝身した一億國民の血の努力、汗の結晶がこの大戦果を生んだのである。

臺灣沖航空戦の綜合戦果が發表されたとき、栗原海軍報道部長も、その談話の中で「...一方、現代戦の性格がいかなるものであるかに思ひ及ぶとき、この戦果は戦後における生産戦の戦果であり、輸送戦の戦果であり、否、全國民の勤勞戦の戦果であり、生活戦の戦果である...」

と、この明らかな事實をばつきり裏付されてゐる。われらも懐かこの戦果に置る片鱗を察ふことができたのだ。何といふ誇りかな目覚めたらう。また「造つて送りさすれば必ずやつてくれるぞ」と、この大戦果によつて、われらの必勝の信念は一層強化された「やればやれるぞ」と

しかし、決戦はまだ序の日に過ぎない。戦勢は大きく轉換されたのであるが、あの大打撃にも拘はらず、敵はその驕慢な銳鋒を決して鈍らせてはゐないのである。敵は臺灣航空戦の直後、十月十七日には、太平洋の主力部隊と目される極めて優秀な機動部隊をもつて輸送艦隊を伴ひ、比島中部のレイテ島に侵入し來り、二十日には同島のタクロバン附近に上陸を開始した。太平洋決戦の戦況は今や比島をめぐつて更に急迫を告げるに至つたのである。

比島奪還作戦はかつて敵主腦部がたびく公言したところであり、ルイスワエルトも、ニミッツも、マクアーサーも、それにチャーチルまでが強調反復してゐる。ルイスワエルトはハワイ作戦合謀の巻に當り「アメリカの當面の戦争目的はフィリピンを奪還して、日本を無條件降伏せしめることにある」と記者團に語つた。またニミッツは「太平洋において勝利を収める何よりの先決條件は、日本に對する海上補給路を支配してしまふことにある。この海上支配が確立されたならば、反機動軍は日本に對する原料の流入を阻止し、他方、南方占領地に對する日本本土からの兵員、ならびに軍需品の供給をも遮断することができる」と語つて、日本と南方占領地帯との補給運送路を遮断せんとする比島作戦の目的を明確にしてゐる。

新たな諸戦には、敵は大敗北を喫した。だが、これまで敵に有利に展開してきた戦勢を過信し、少しも戦意の衰へをみせず、豫定の如く比島作戦の幕を切つて落したのである。正に決戦はこれからである。しかもなほ、敵は對日包圍總攻撃を策せんとし、北東方面には敵北西太平洋艦隊司令官フレッチャーが、わが干島、北海方面への進取作戦を企圖してをり、またインド洋方面には新たに東洋艦隊司令官に任ぜられた作戦の名將フレッチャーが、英國艦隊の主力を率ゐて、

既に運動を開始してゐる。

さらに支那大陸にはステルワエルの在支米地上機械化部隊あり、歐洲陸戦の青年將軍ラマーの率ゐる長距離専門の在支第二十航空部隊、シエンノット陸下の在支第十四航空部隊あつて、大陸の米軍の勢力はまほ々しい。

かく考へると、練戦の大戦果にも拘はらず、帝國の四圍は決して樂觀を許さない状況にある。

殊に、敵は最近、各種の事情から非常に短期決戦を構つてゐる。歐州戦局が敵に豫想外に有利に展開して、今や太平洋攻勢に主力を注ぎ得る新段階に達してゐることも、その理由の一つであらう。また、これまでの戦局の好轉により、米英、殊に米國內に戦局樂觀氣分が熾進し、その結果、國民の戦争努力が弛緩せんとする傾向もあるもので、戦争指導者が國民の戦意が冷めないうちに、一時も早く戦争を終りたいと意圖してゐることも考へられる。殊に十二月七日、米國大統領の選挙をめぐつてルイスワエルトがその人氣取りの方策に、無二無三戦局を押し進めんとする野望も考慮される。

敵はその總力を振つて太平洋決戦に突入して來るであらう。いや現に突入しつゝある。われわれがこれを迎へ撃つて、今後になすあらんとする道はさらに困難であり、さらに艱難に當むるのであることを決意しなければならぬ。

同じく栗原報道部長は

「敵國は大東亞の堤防の一角比島に對しニミッツ艦隊を右腕とし、マクアーサーの軍隊を左腕としてのしかつて來た。今や右腕たる敵機動部隊には一大掃打を興へた。こんどは左腕が比島にのしかつて來てゐる。このとき、われわれはその左腕を根元からへし折らねばならぬ」といはれてゐる。

すでに生死を超えて、ひたすら護國滅敵の大義に生きんとしてゐる前線の陸海將兵に十分これをなさしめるものは何か、誰か。

殊にあの大戦果の陰には、まだ還らざる三百十二機の尊い犠牲があつた。わが國にとつては嘗てみない大きな犠牲である。われわれは、失つた機成を即座に送り届けるだけの精進ではまだく足りない。

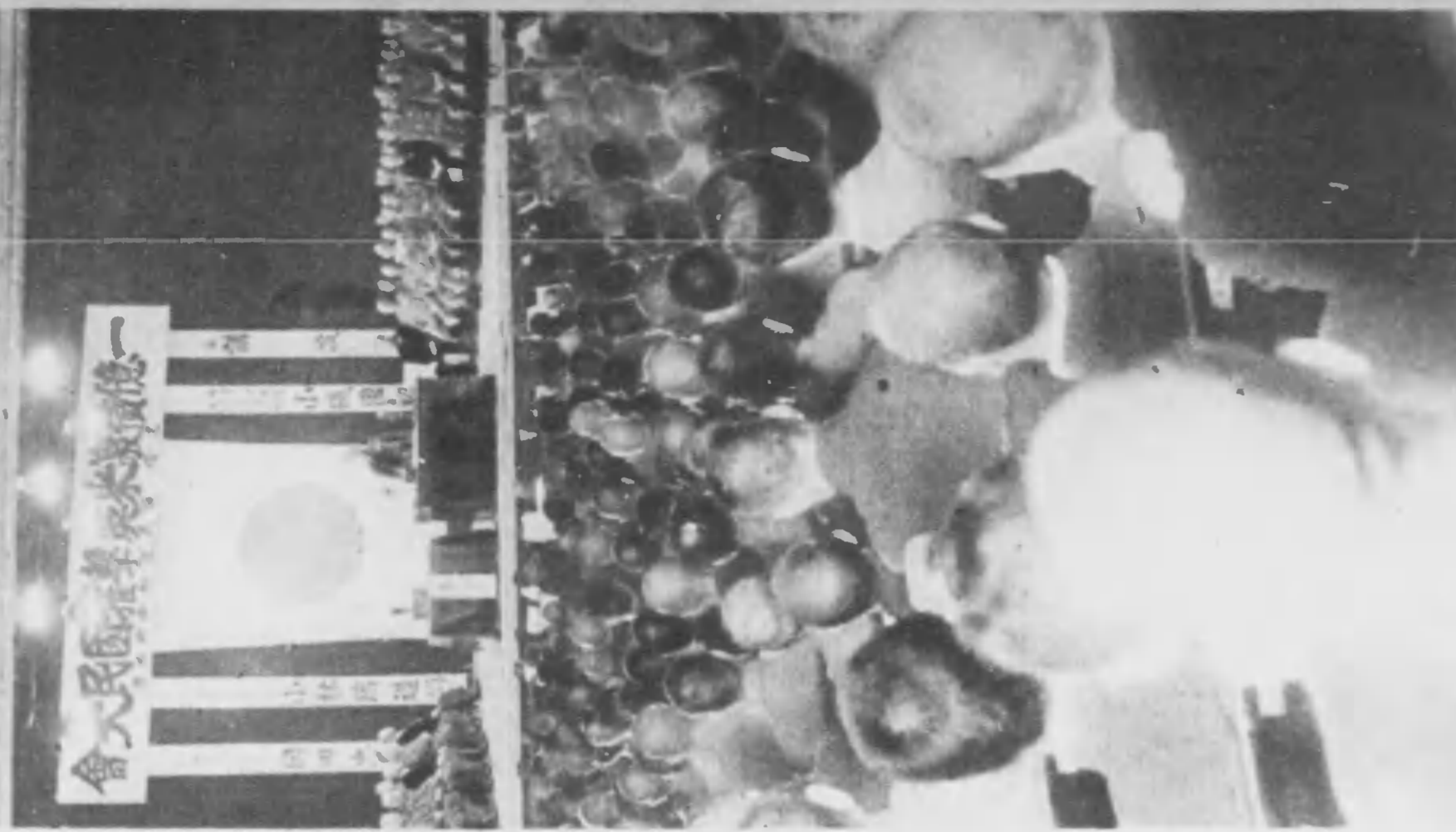
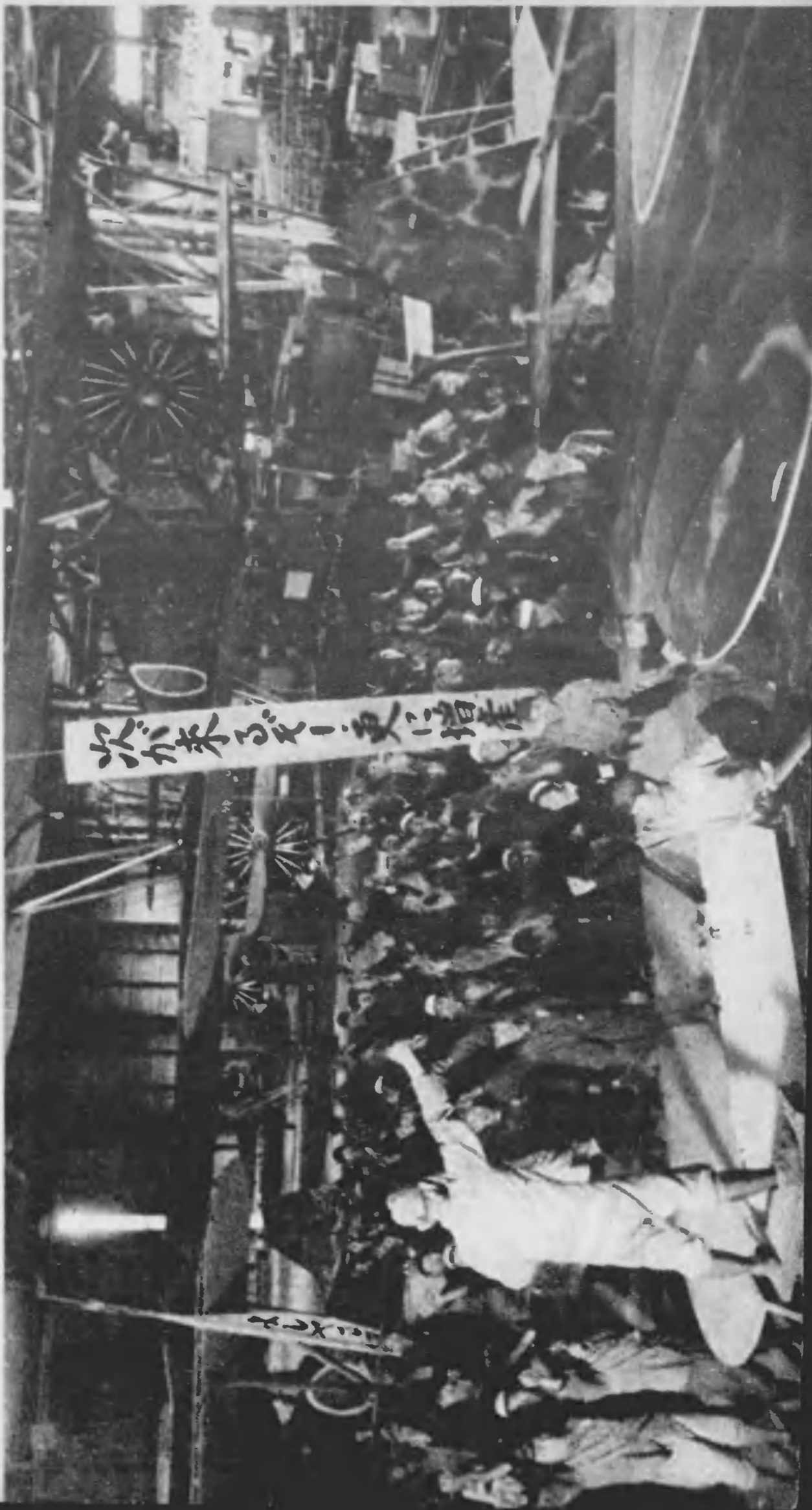
南の空には、決戦の熱風が血潮と火炎を孕んで正に世紀の波瀾を捲き起さうとしてゐる。送れ飛行機を、造れば勝つ」の必勝生産魂に徹して、一億たい火の玉となつた追撃増産こそ、戦勢轉換の神機をさらに確實にして、輝かしい勝利の大道を拓く唯一の鍵である。

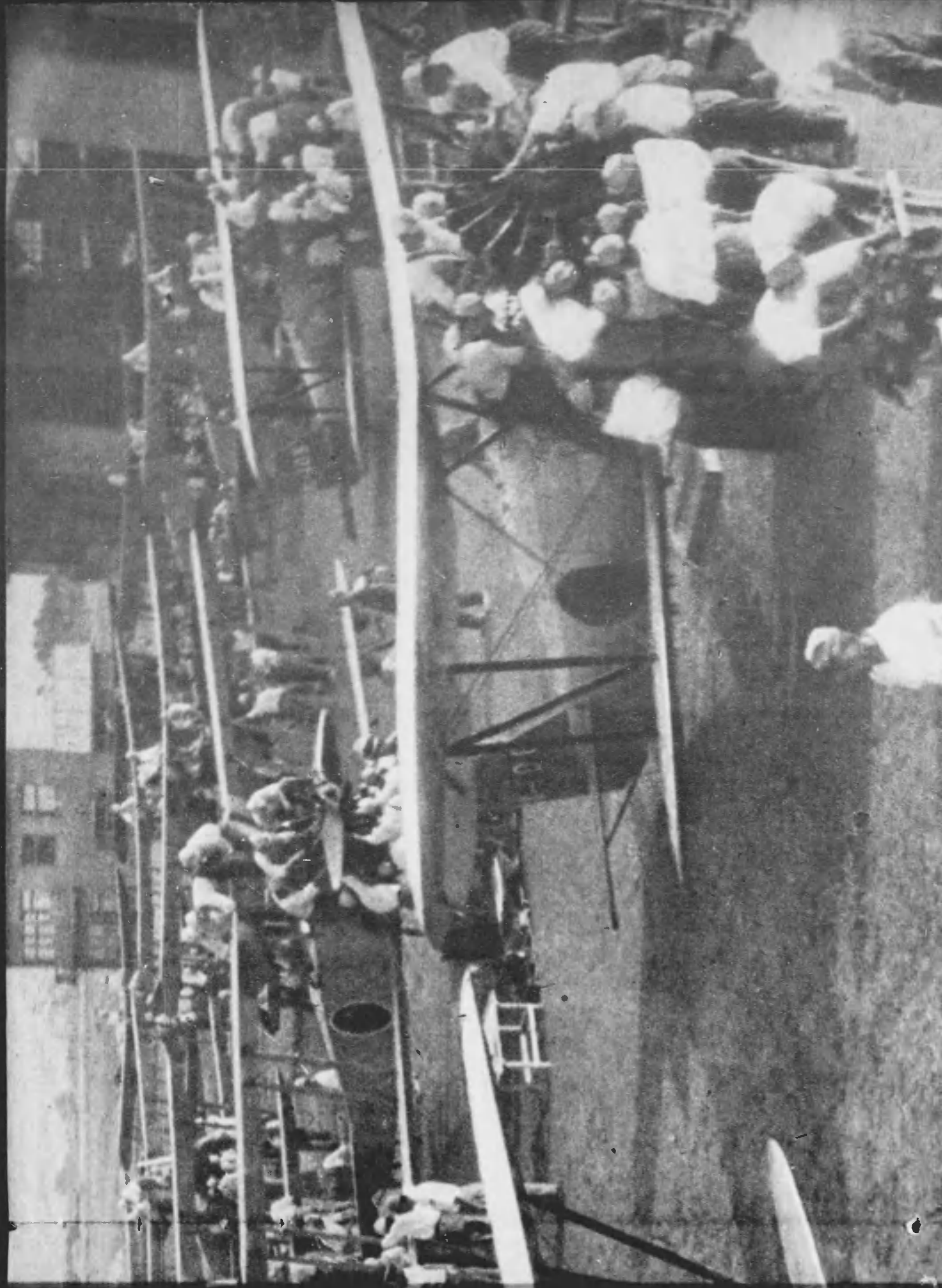
一億は増産を追撃く

台湾沖の大戦果は決戦に前途の血祭りだ
 小磯内閣総理大臣はさる十月二十日に東京都日比谷公会堂に開かれた「一億憤激美英偉大国民大会」で「歴史的増産への一億をひたむきに追まうてはならない」と呼びかけられたが、今こそこの戦勢轉移の秋を掴まう、われらの造る飛行機で兵器で、敵を追って追ひまくらうとあらゆる戦場もすかさず追撃増産に突入した

自た
 獅子吼する小磯総理大臣
 日立航空機工場では、丸となつて躍起した
 「頑張りで敵を叩き潰さう！」

総力は必ず敵つのだと、高鳴る魂を柱にこめてつと打ちむ





兵願志軍海 ぞく銃毛ら僕

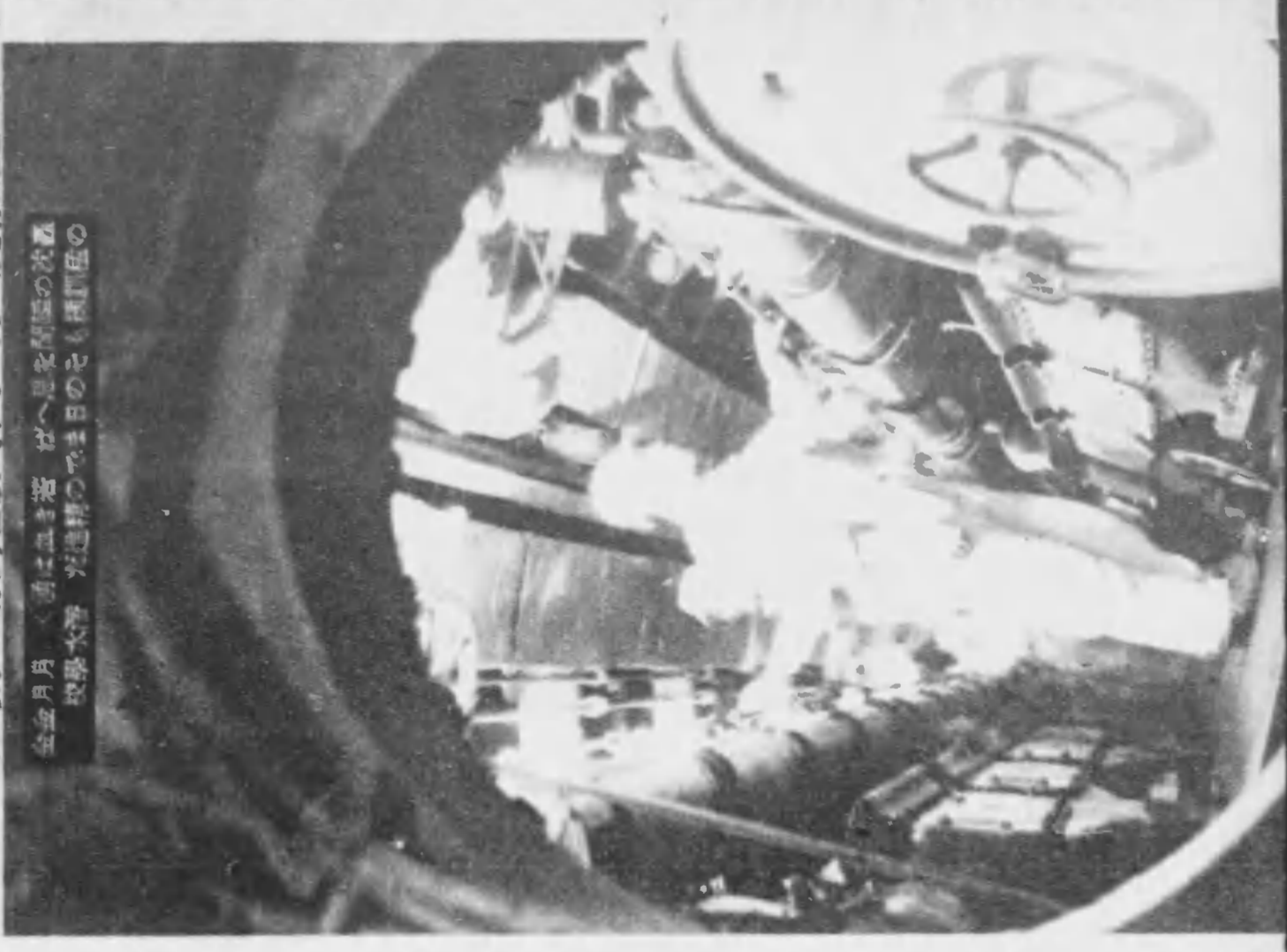


る入に銃軍の面方るす望されそれそ、とるへおを育機機基兵新の月三約で開兵運はのもたれさ用採に兵水の汽噴てしと兵艦は軍艦

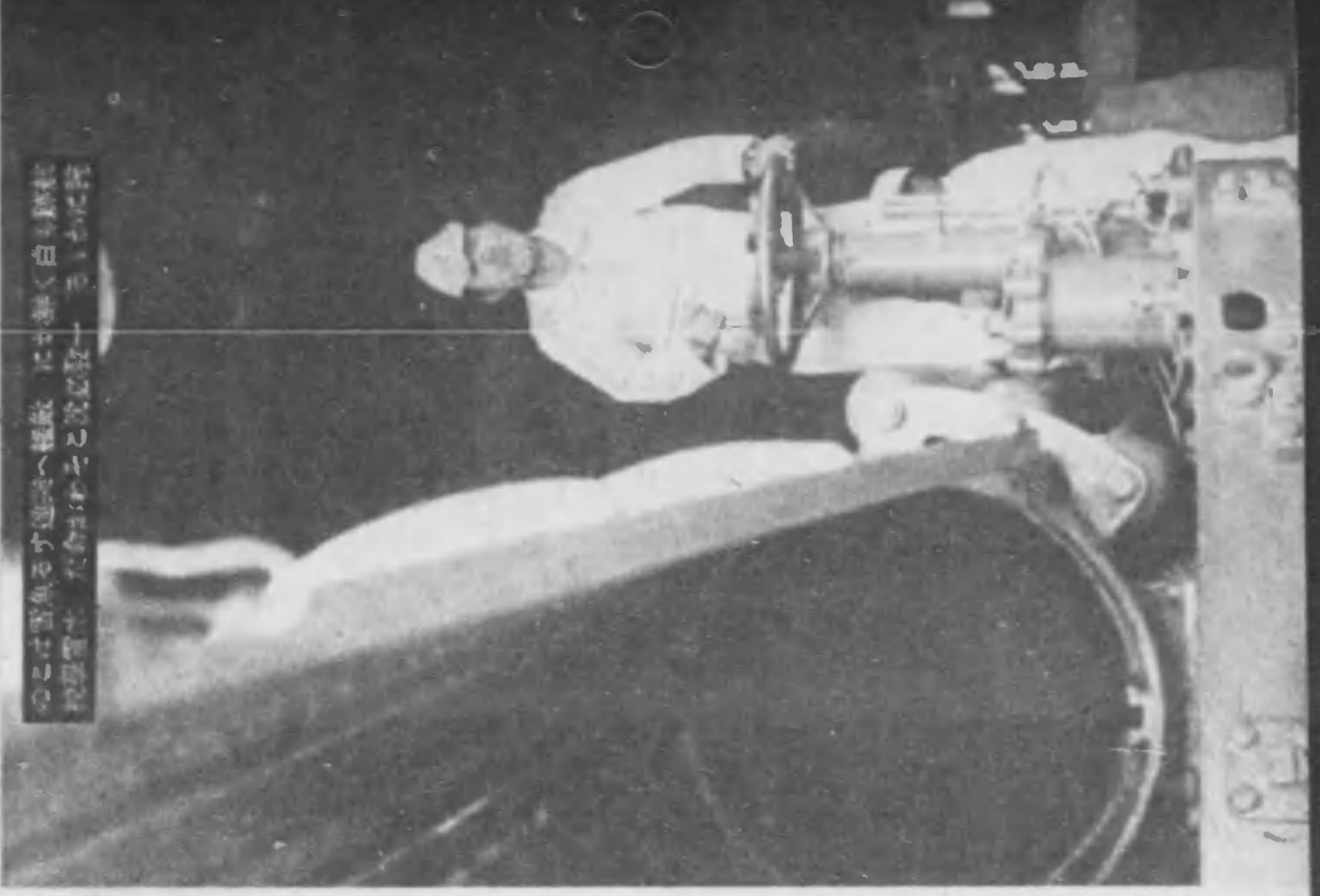
兵艦に最は兵艦の機銃の射撃の様子
 1904年 2月

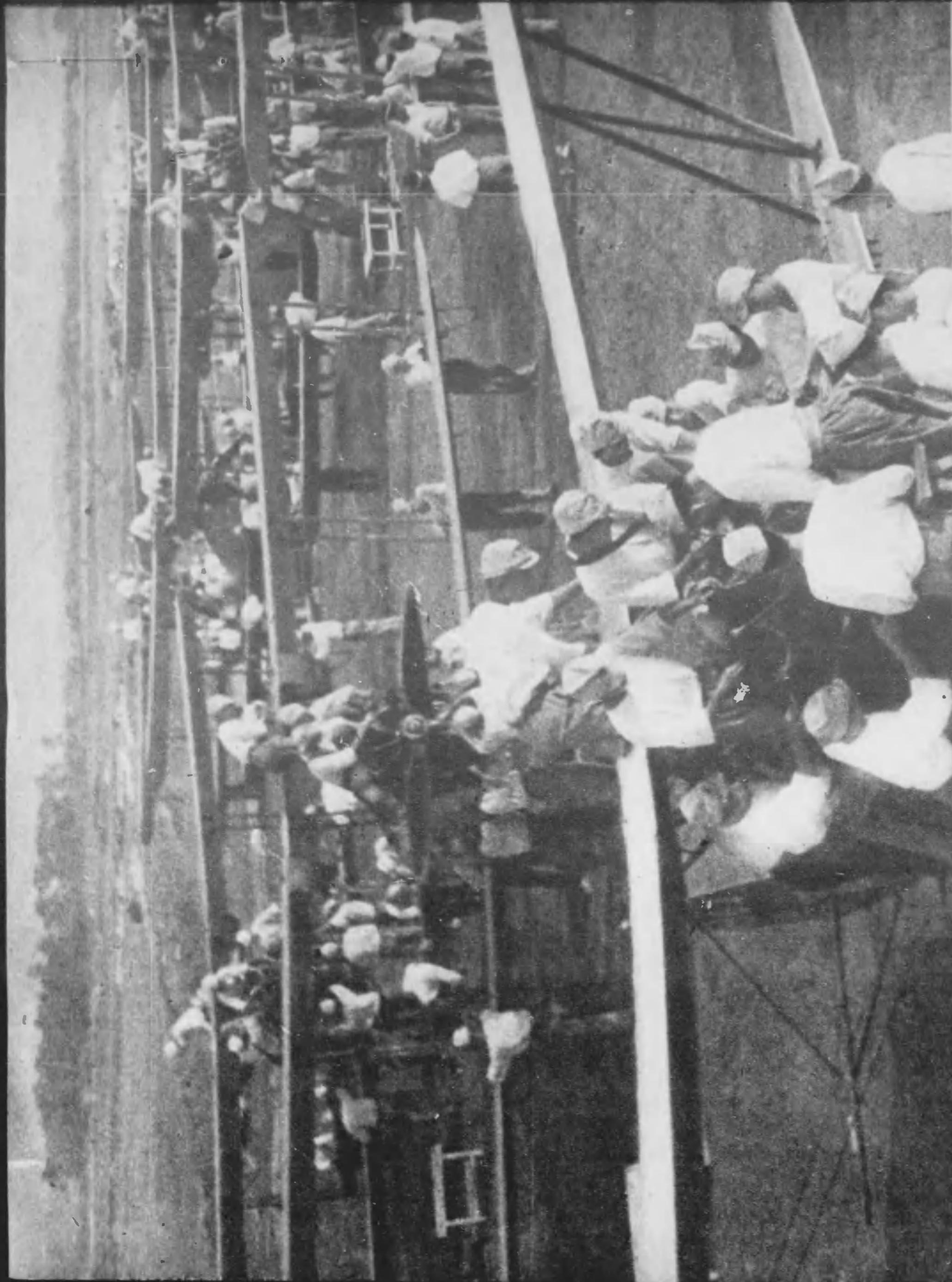


金魚月 通は蒸き釜 ばへ思を開張の空
 攻撃大砲 汽送機のもま日のとく機艦の



このは軍艦の汽送機へ機銃 にも多く白も機艦
 汽送機は だおれはここ汽送機一 ともかた機





兵窟



全国青少年に望む

海を制するものは世界を制す」とは昔からよくいわれる言葉であるが、われわれ今日はこの言葉をもつ意味を正確に感ずる時はない。常に海洋の雄略こそ、開運の基である。大東亞戦争は今や太平洋に集中されてゐるが、太平洋の制覇なくして大東亞戦争の利はない。制海権を獲得するには強力な海上

兵力を必要とするはいふまでもないが、この海上兵力とは海洋航空、水上、水中の一切の兵器、飛行機などの器材と、これを操作する人員である。且つまた海軍の進歩發達した艦艇、兵器、飛行機等を自由自在に操作し、その威力を最大に發揮せしめるのは船員人であつて、その人は年少にして且つ氣力、體力、智力ともに優れた人でなければならない。軍艦や駆逐艦や潜水艦に乗り込んで、精巧な

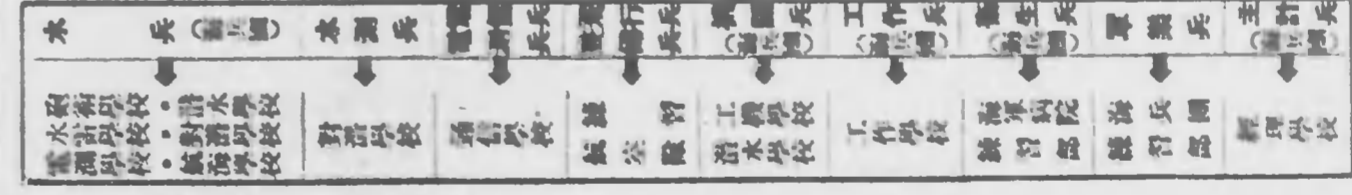
に達し、また航空機に搭乗して洋上遠く敵を襲撃し、これを掃蕩殲滅し得るものは誰か、海軍の中隊兵力たる海軍志願兵こそ、これをなすべき得るであらう。若し貴國の海軍に認めらるる青少年諸君に期待する所以である。今や敵米はその龐大な物量を持ち、わが國防線の突破を試み、最近ではその艦牙をフイロピン、夜間には、長大なる打撃をうけつゝも、なほ反攻の力を絶えず奮闘しよといふ事である。防敵陣線の維持等として近づきつゝある

海軍志願兵

諸君 兵種によつて異なるが、採用の年、即ち昭和二十年十二月二日現在で計算して次ぎの如くである

兵種	年齢	出生年月日	備考
水兵 乗組兵 機関兵 工作兵 衛生兵 主計兵	十四年八月一日以上	自昭和十三年十一月一日出生の者	
少年水測兵 少年電信兵 少年飛行兵	十四年八月一日以上	自昭和十四年四月一日出生の者	
軍樂兵	十六年未以	自昭和十四年十二月一日出生の者	

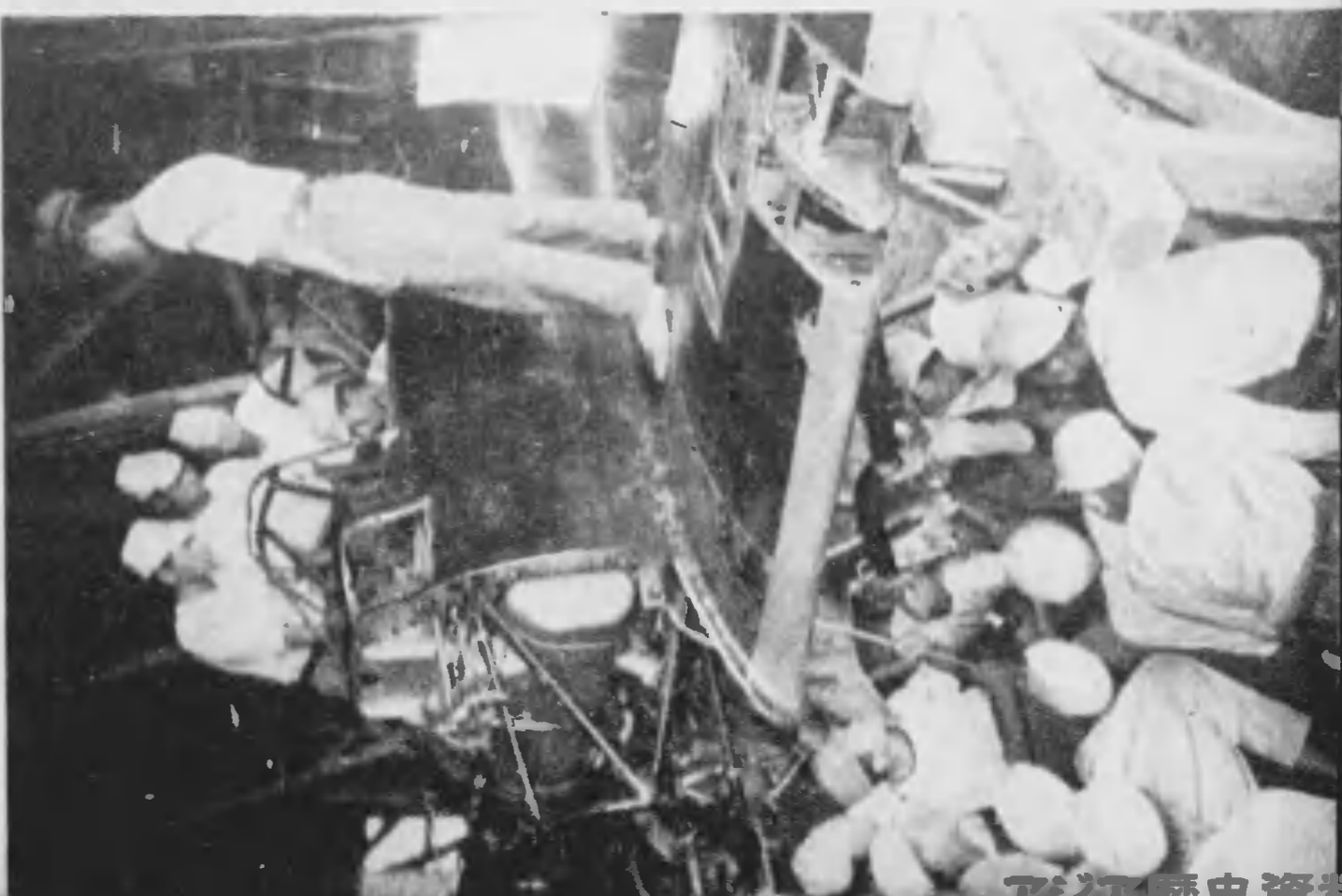
志願日は最寄の市役所または町村役場の兵事係に問合せ、志願用紙を貰ふこと



空に雲霞と映かん
七つ如に揺れる若人の
胸には必ずやこの烈々
たる國魂が燃められて
あるに違ひない。海軍
はもこの國魂を生かす
道は拓かれ、これまで
難事を果ばせるなか
に、陸で勞苦を積んで來た
海軍員が、飛行兵と兵
に空の決戦へ参加して
あるのだ。こゝに海軍
航空隊にあつて、機関
兵、兵器の整備に
出にまかれた諸君が
夢に無くともまた空
を高く飛べしその日
は

海軍員は一刻も早く
志願せよ。海軍は貴國の
やうなといふ海軍の輝
きがこゝにある

海軍に輝く機軸を故村
とするだけで、若し制
は艦隊で一杯だ

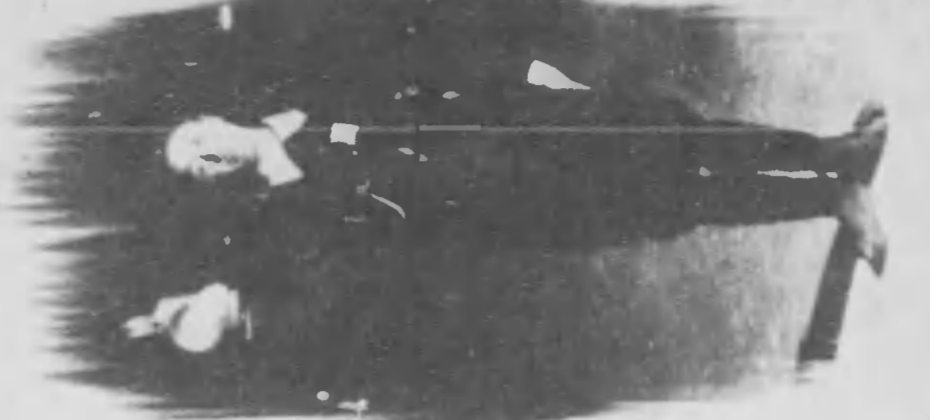


海より来る敵は海の方
に撃破すべきである
愛國の熱情に燃ゆる青少年は
この際、奮つて帝國海軍に身
を投じ、光輝ある軍艦の下
に海の誇りに飲かれんことを
希望してやまない
海軍省人參謀長
海軍中佐 清水 秀政



乙女たちが作る鉄路

信濃 戸倉



⇨ 運來の乗降場に纏る合圍。重要輸送の急行貨車が娘女の道を通過する

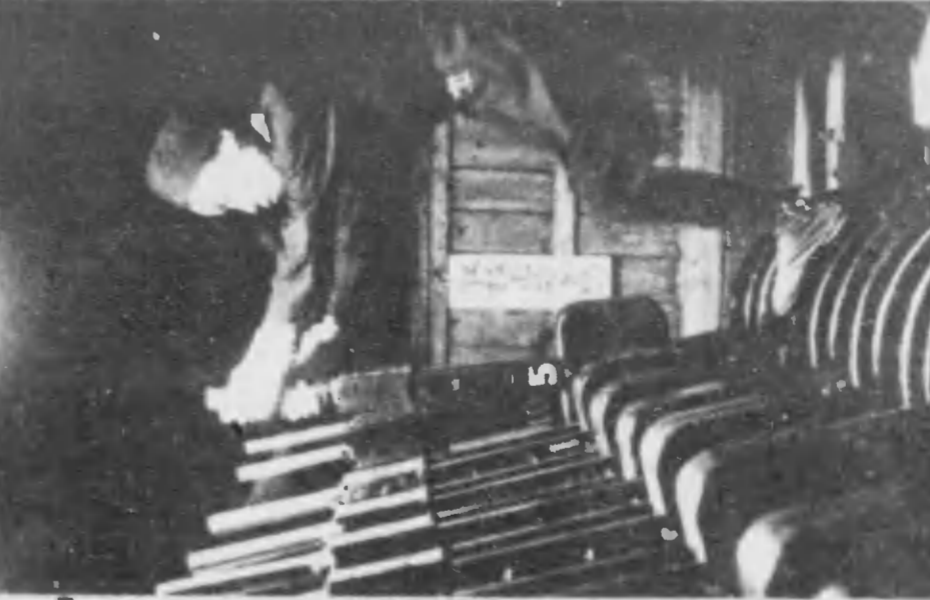
決戦はまだ序の目だ。そして清國ではもう飛行機は十分だ。兵器は神山大と決していつてゐない。もつと送ら、もつと送ら。それにはみんな働くことだ。男も女——いや男は第一線にゆく。女も女も女だ……

そしてこの國鐵信濃職員舎には、男は榎井部長と助役さん二人だけといふ女ばかりの群だ。召されて征つた男子隊員のおとを引受けて、まだうち若い二十七名の女性が無事から信濃線の取扱、貨車の入換、荷物の運搬まで、現在ますます大變になつた決戦輸送をがっちり擔つて、男子に負けない戦國を續けてゐる

訓練に苦悶しても嬉しく、さづーとかは子隊員の教習も美しい。働け、働け、決戦に勝つてあげよ、女ばかりの群を堅く守り通してゐる娘女たちの姿こそ、明日の大慶業をしつかり約束してゐる

⇩ 訓練所から心に胸の裏を洗つて出る隊員は「召されて征つた兄さんの心をそのまゝ受けついで……」と國鐵勤勞女性の歌

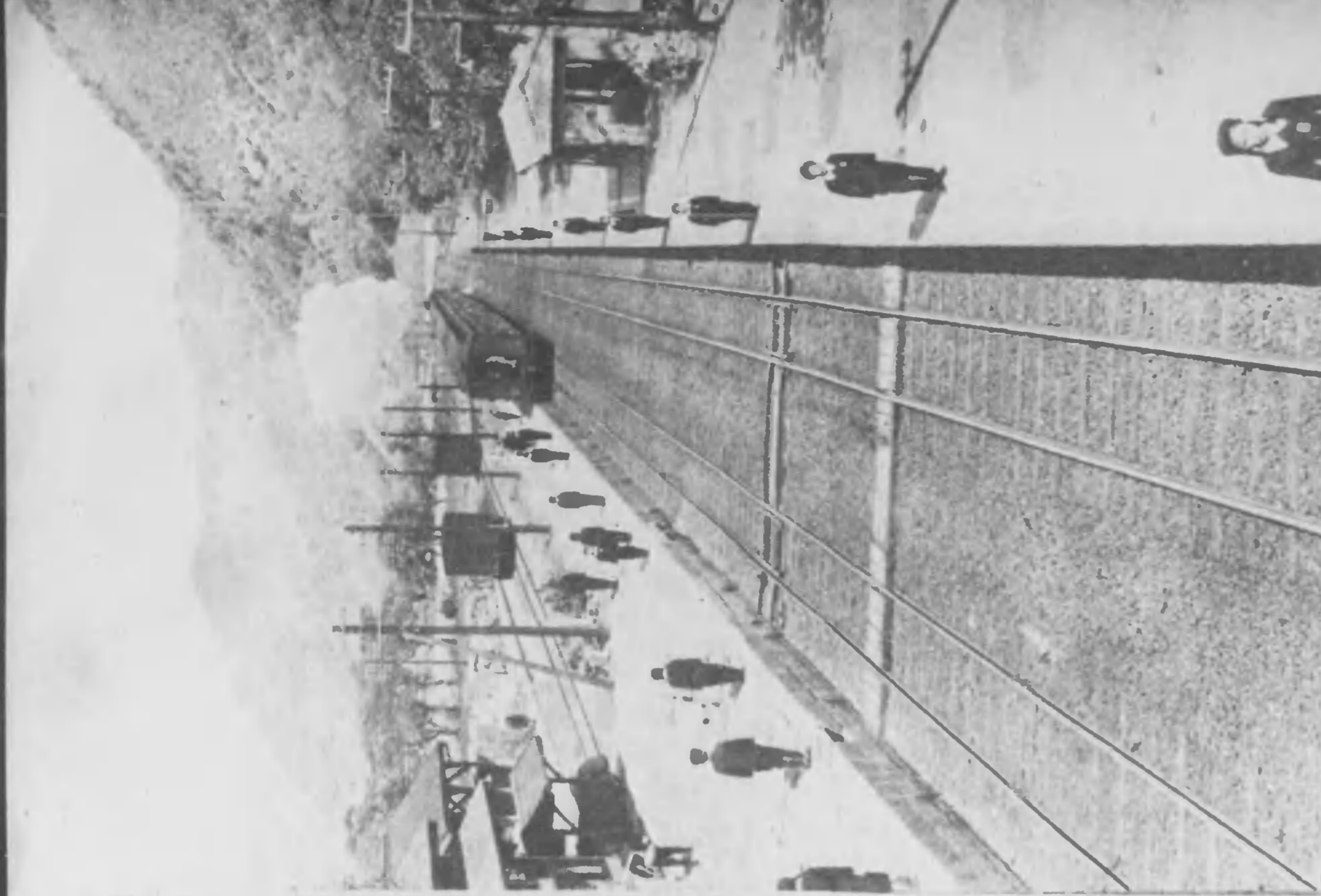
⇨ もう運來だ。機関車のリレーは停たなく、しかも飛んだが乙女は……



⇨ 男子に劣らぬ正しい訓練で業務動作は練成され、確證の呼唱もはつかり



⇨ 女性のたしなみを活かした花が職場を美しく飾つてゐる



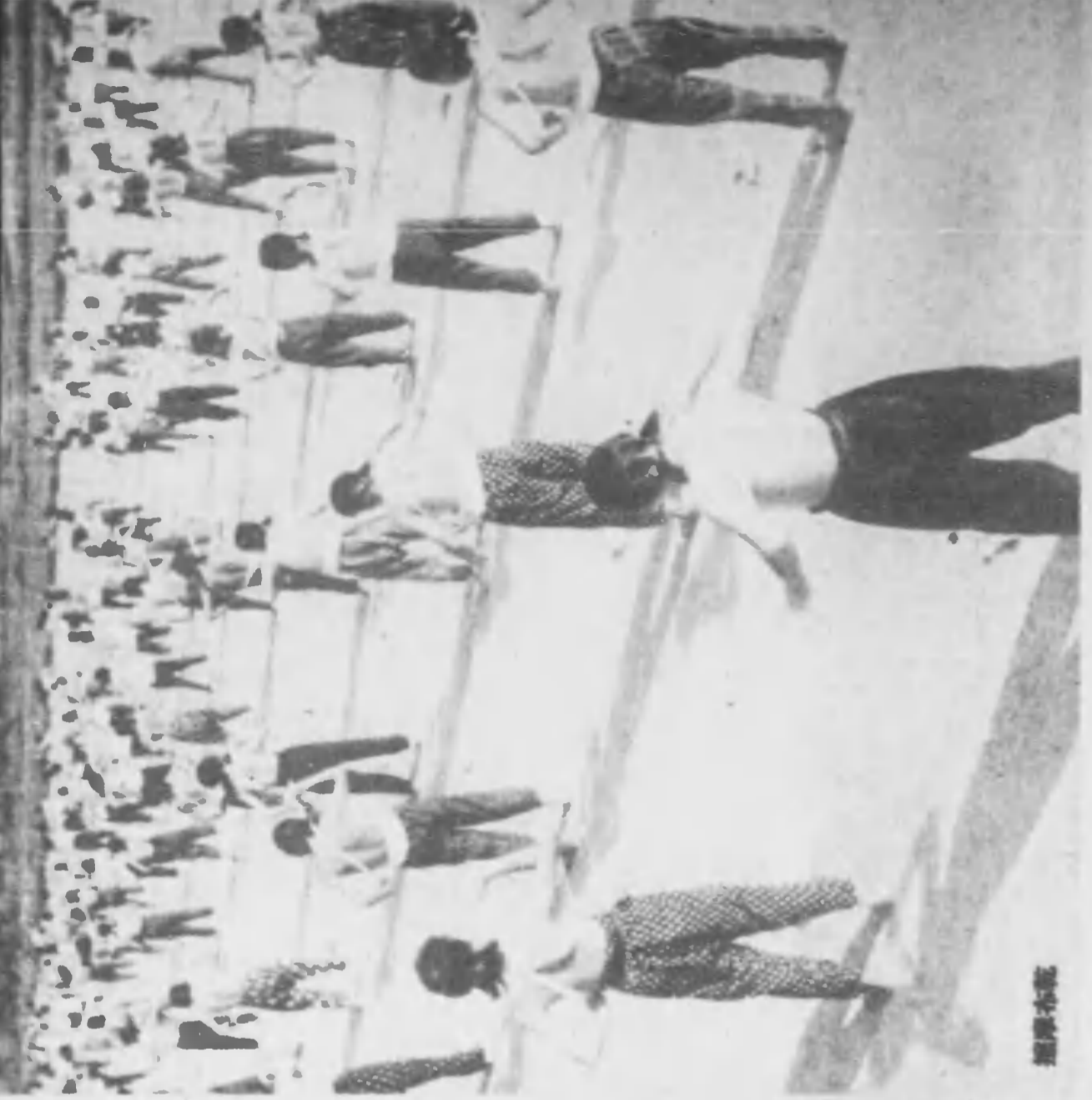
⇨ 列車の通過も、いまは安全と女子隊員にお任せだ。しかも規則正しく業務を



⇨ 手押車も揃へ揃つて、中には三十キロに達する荷物も擔が乙女がある



⇨ 若い乙女の精神は、みんな笑顔で維持し、仕事もどんく持てる



決戦の冬に備えて 健康に注意しよう

もう冬も間近です。朝方はあつかりと冷えてきました。でも、この冬はたいへん早くで始まりました。早くははらげません。飛鳥もいよいよ決戦に突入し、飛鳥の行軍は四方八方から押し寄せてきます。いつお召しがあるかもしれない在郷の軍人は勿論のこと、女でも子供でも老人でも、皆それぞれの特長、職場でありつたけの力を出して働かなければなりません。そして敵を打ち破らねばなりません。それには何といても身体がもとです。まづ健康です。

感冒

冬について誰もが考へられるのは感冒(風邪)です。ね、一日に風邪といつても軽い鼻風邪くらゐのものから、悪性の流行性感冒までいろいろあります。感冒は誰でもかかりやすく、そして割合に簡単に治るもので、子供や老人は肺炎を起して死んでしまうこともあります。特に注意を要します。感冒は目に見えない細菌やウイルスが呼吸器から侵入して起るもので、普通の感冒も流行性感冒も、

もとは同じで、ただ感染力の多い少ないの差があるだけです。

「感冒の予防」
今年はいくつか、流行性感冒は殆んどおさげ、また二、三年來、職業病に流行してゐるやうな悪性のものもまだ侵入してはゐませんが、何時やつて来てもともしないやうな丈夫な身体をつくつておかねばなりません。感冒に對する抵抗力を強めるには、何といたつても皮膚や呼吸器の健康が重要で、

一、皮膚の健康
(イ)乾布摩擦、空気が浴
冷水浴は皮膚によつて無理な人もありますが、今から始まるには乾布摩擦がよいでしょう。毎朝起きたとき、乾いたタオルか手拭で皮膚が赤くなるまでこすります。これは一層に空気を浴もすることになり、血行をよくして新陳代謝を盛んにします。

(ロ)日光浴
秋から冬にかけては日光浴の最盛期です。紫外

線の多い秋の日光は皮膚の抵抗力を増すばかりでなく、冬の寒さに耐えるために必要なビタミンDを体内にたくさんつくります。特に北国では冬の間は日を見るのが少なく、紫外線を浴びず、子供が何れに、かいつたり、風邪をひきやすくなつたりしますから、今のうちに十分に浴びておきましょう。

二、呼吸器の健康

(イ)含嗽
呼吸器が弱ると、感冒やチフス、猩紅熱などに冒されやすくなりますから、外出の後、先には必ず冷たい水で含嗽をいたしましょう。冷たい水や食塩水、重曹水なら理想的ですが、水でも結構です。これは粘膜の乾燥になると共に、附着した菌を洗い落すので、予防にもなりますから、ぜひ実行して下さい。

(ロ)深呼吸、マスク
深呼吸のよいことは誰でも知つてゐますが、肺臓を丈夫にするためにも、時間を取つて実行して下さい。

ついでにマスクのこともよく知つておきましょう。これはかへつて呼吸器の抵抗力を弱める結果になりますから、丈夫な人はなるべくしない方がよいでしょう。たゞ悪性の感冒が流行したとき、また自分が病氣にかかるときには、予防のためにも、公徳心からもマスクをかけるべきです。

「感冒の手當」

初期の症状としては二三日の潜伏期間の後、鼻水が出たり、喉痛が出たり、頭痛がしたり、悪寒がしたりして、熱が三十八度から四十度くらい出ます。早ければ早いほどよく、悪性の感冒でも、発病して三日以内に癒れば、必ず治るといはれてゐます。決して無理をしてこらへてはいけません。それから軽い器具を看ること、頭部や胸に湿布をすること、頭を冷やすことなどです。また消化器も弱つてゐますから、あまり重くならないものは食べてはいけません。喉も腫れる熱さましを少し減らす位はよいが、あまり飲みすぎると胃腸を害したり、副作用を起したりしますから、注意しなければなりません。少し悪寒が強いやうなときはなるべく静養に心がけて下さい。

チフスや猩紅熱

冬の傳染病はチフスや猩紅熱、呼吸器系のものが十一月頃から急に多くなります。これを防ぐには予防注射が一番よく、無原因で有効性は高く、効果は確實で、生後十ヶ月以後の幼児でも受けられます。今からでも十分に合ひますから、近所の保健所か病院に相談して下さい。

麻疹チフスその他

このほか麻疹チフスは昨年あたりから急に多くなりました。一昨年は患者數が百名に達したのが、昨年は千四百名にもなつてゐます。大抵冬の間から春にかけて流行するので、今年は大いに注意を向けませう。これは主に発生する一種の傳染物が皮膚から侵入して起るもので、初期症状は発熱が出て顔の赤みが顔み出し、四日目から眼痛と小さな豆粒大の疹があらはれ、一、二日のうちに全身に広がります。特に足の裏や手のひらに出ること、膿疱が皮膚からもりもり出ることが特徴です。

予防法としては、冬に向つて風通しを徹底的に行ふこと、風のついた衣類や下着は洗濯機で洗つて乾燥機を行ふことです。冬にはチフスや赤痢は少ないのが常ですが、一、二年前から東京、大阪等の大都市地域に多量のチフスが流行してきてゐます。原因は病菌を持つ貝類を生で食へるからで、牡蠣や青貝も決して生や酢のものでも食へないこと、また外出の際は、特に新鮮でない料理を食へないやうにしたいものです。

栄養

また冬の寒さのために血行が悪くなりがちで、このために手足に凍傷を起します。特に心臓の弱い人や閉塞の人に起りやすいので、これらの人は今のうちから防寒を受けておいた方がよいでしょう。

總じて冬は屋内に籠りがちで運動不足になりがちで、今のうちに十分運動をして、新陳代謝を盛んにすることは勿論、冬になつても屋内でできる運動、たとえばラジオ体操のやうなものも努めていたしましょう。今のうちに屋外でもやれる一番よい運動は歩行です。必ずしもハイキングや野外散策に限らず、外出や運動時に、努めて歩くやうにするだけでも効果があります。

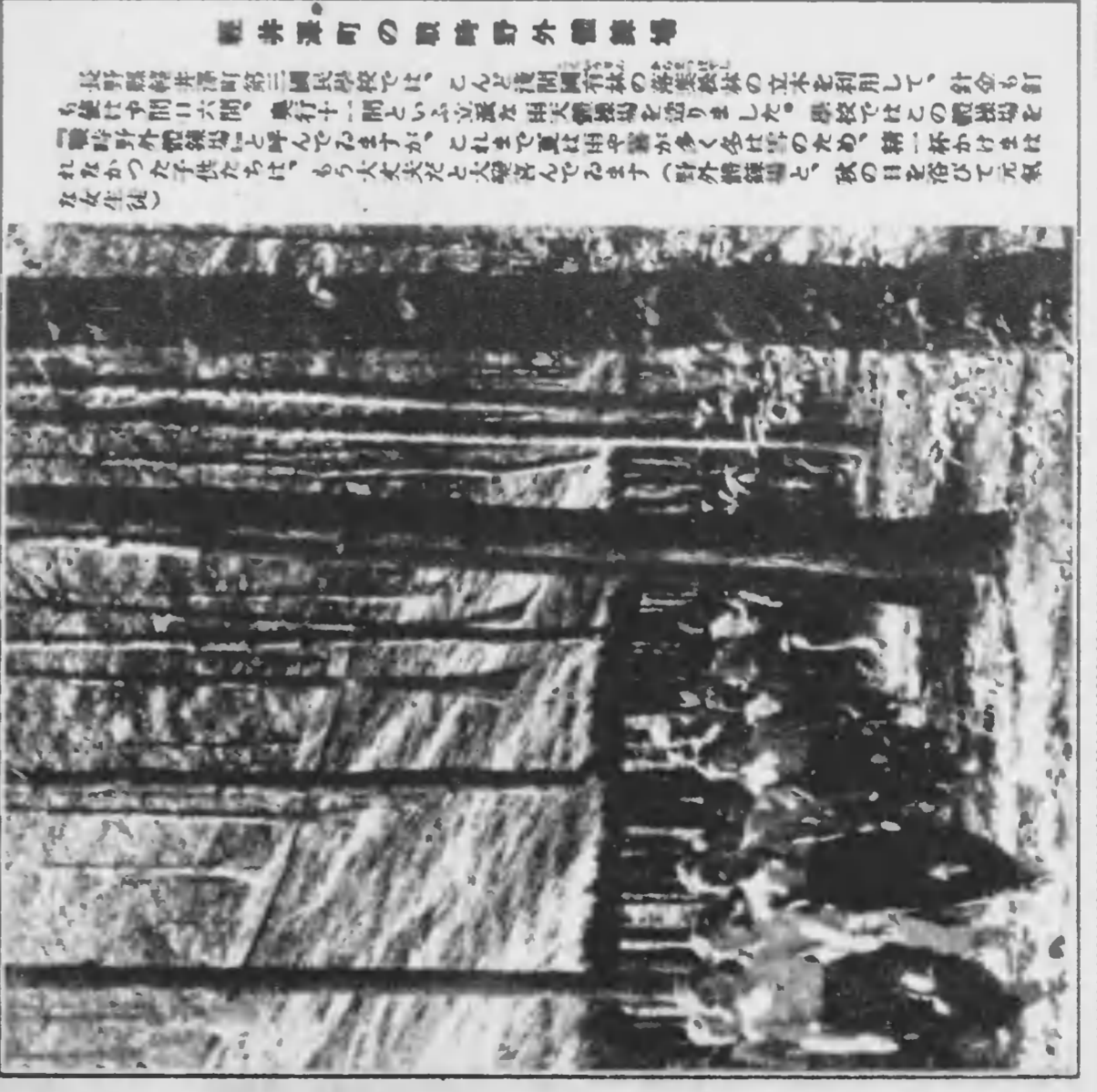
寒さ

寒さに向ふにつれて、たくさんのカロリーが必要になります。朝ごはんをしっかりと食べて、冬に備へておきましょう。

要になります。朝ごはんをしっかりと食べて、冬に備へておきましょう。朝ごはんをしっかりと食べて、冬に備へておきましょう。

耐火木村

日本の家が空襲に不利なことはよく知られてゐる。耐火木村は、冬に備へておきましょう。耐火木村は、冬に備へておきましょう。



耐火木村

日本の家が空襲に不利なことはよく知られてゐる。耐火木村は、冬に備へておきましょう。耐火木村は、冬に備へておきましょう。

この種の製品には鉄線アンモニア、構架アンモニア、耐火アンモニアなどが使われ、これらは熱に耐えて木材の表面に耐火層を造り、また一方、分解してアンモニアのやうな不燃ガスを発生して火勢を弱める働きをします。

このほか深山の耐火木村が考へられ、作られ、また現在も盛んに研究されてゐます。

大きに注入機、作を簡便に説明させよう。圖のやうな薬液を注入する(イ)に木材を入れ、片をしつかり閉ぢた後、排気ポンプ(二)で(イ)内の空気や木材の中の水分などを除いて薬液が入り易くし、次に(ト)の方から薬液を送り、タンク(ホ)を回し、排気ポンプ(ハ)から薬液をタンク(ヘ)に送り、さらに排気ポンプ(ニ)を通つて(イ)の罐に送り、木材の内部まで薬液を浸透させるので、勿論これにも、いろいろな方法や装置が考へられてゐます。

